

# 平成 31 年産水稻の 10 a 当たり平年収量 に係る生産事情（都道府県別）

大臣官房統計部

平成 3 1 年 3 月 1 4 日

**農林水産省**



平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
北海道	<p>○ 「ななつぼし」が減少し、「ゆめぴりか」、「ふっくりんこ」等が増加傾向にある。</p>	<p>○ 収量・品質の安定に向け、健苗の育成や稲体の耐冷素質の向上を図るため、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育苗管理の徹底</li> <li>・ 深水管理とそれを可能とする畦畔整備</li> <li>・ 地力増進やほ場の透水性改善</li> <li>・ 防風対策等の栽培環境整備</li> <li>・ 適正施肥</li> <li>・ いもち病予防のための種子消毒</li> </ul>
青森	<p>○ 「つがるロマン」及び「まっしぐら」の2品種で9割を占める品種構成で、近年、「つがるロマン」が減少傾向、「まっしぐら」が増加傾向にある。</p> <p>また、県では「青天の霹靂」のブランド米評価確立を目標とし、栽培・出荷基準等要件を設定しているものの、収量が不安定で採算性を疑問視する生産者が増加したため、前年産を下回る見込み。</p>	<p>○ 良食味・高品質米の安定生産（気象に左右されない米づくり）に向け、以下の指導が行われている。</p> <p>また、県産米の玄米たんぱく質含有率7%以下、整粒歩合80%以上、1等米比率90%を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適地・適品種の作付誘導</li> <li>・ 栽植密度の適正化</li> <li>・ 適正な肥培管理や水管理</li> <li>・ 適期移植</li> <li>・ 土作りの推進と適正な施肥</li> </ul>
岩手	<p>○ 「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p> <p>県では「ひとめぼれ」、「あきたこまち」からオリジナル品種「銀河のしずく」に転換を図ることとしている。</p> <p>なお、「金色の風」についてもオリジナル品種として、県を中心に普及拡大に向け、力を入れている新品種であるが、栽培が難しく低収量であるため作付けが伸びない状況である。</p>	<p>○ 品種特性を踏まえた品種の作付けや低温障害回避のため、適期移植の指導が行われている。</p> <p>○ 有機物による土作りや追肥の適正実施の指導が行われている。</p> <p>（土壌診断に基づく補給型施肥（収穫等によってほ場外に持ち出される分だけを補給）及び追肥時期・追肥量の適正な実施（ひとめぼれ、あきたこまち、いわてっこ、銀河のしずくは幼穂形成期に2kg/10aを上限、どんびしゃりは幼穂形成期に2kg/10aを基本）等を推進</p>
宮城	<p>○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、「つや姫」が増加傾向となっている。</p> <p>なお、「萌えみのり」、「だて正夢」はやや増加傾向にある、</p>	<p>○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作型の改善（出穂期を遅らせる作型）</li> <li>・ 土づくりの推進と適正な施肥</li> <li>・ 適正な水管理と病害虫防除等</li> </ul>
秋田	<p>○ 「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>	<p>○ 良質・良食味米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土づくりの推進と栽植密度の適正化</li> <li>・ 適正な水管理と雑草防除の徹底</li> <li>・ 適正な施肥管理と適期刈取り等</li> </ul>
山形	<p>○ 「はえぬき」、「つや姫」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっており、近年、「つや姫」が増加傾向にある。</p> <p>なお、新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>	<p>○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健苗育成</li> <li>・ 適正な水管理</li> <li>・ 防風対策等の栽培環境整備</li> <li>・ 土壌診断に基づくリン酸、カリ等の適量施肥等</li> </ul>

平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
福島	○ 「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成で、近年「天のつぶ」が増加傾向となっている。	○ 土壌診断に基づくカリ施用、堆肥の施用による土づくり等の指導が行われている。
茨城	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。 なお、オリジナル品種「ふくまる」がやや増加傾向にある。	○ 良質米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適切な中干しによる茎数管理 ・ 適期収穫と適正乾燥・調製
栃木	○ 「コシヒカリ」及び「あさひの夢」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 なお、オリジナル品種「とちぎの星」がやや増加傾向にある。	○ 品質や食味の向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 移植時期の分散化 ・ 生育診断に基づく適正な肥培管理
群馬	○ 「あさひの夢」、「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ゆめまつり」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 夏場の高温対策として、高温登熟の回避や高温に強い稲体づくりなどの徹底等の指導が行われている。 ・ 適期移植と水管理 ・ 土づくりの推進と適期、適量施肥 ・ 早期落水の防止
埼玉	○ 「コシヒカリ」、「彩のかがやき」及び「彩のきずな」を中心とする品種構成であり、近年「キヌヒカリ」が減少傾向にある。	○ 品質・食味向上に向け、栽培管理技術の徹底及び栽培基準や栽培指針に準じた肥培管理の指導が行われている。 ○ 夏場の高温対策として、水管理の徹底、栄養診断に基づいた施肥の実施及び適期収穫の指導が行われている。
千葉	○ 「コシヒカリ」、「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成であり、近年「ふさこがね」及び「ふさおとめ」が増加傾向にある。	○ 近年、高温が続いていることから、気象条件に強い稲作りに向けた栽培技術を重点的に指導することとしている。 ・ 適正な育苗管理と栽植密度 ・ 茎数確保以降の水管理 ・ 出穂期の栄養状態を保つ施肥管理 ・ 早期落水防止等
東京	○ 「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	
神奈川	○ 「はるみ」、「キヌヒカリ」及び「さとじまん」を中心とする品種構成であるが、近年、「キヌヒカリ」及び「さとじまん」が減少傾向にある。	○ 良質・良食味米の生産に向け、登熟歩合の向上や登熟期間の障害低減のための穂肥適期施用等の指導が行われている。

平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
新潟	○ 「コシヒカリ」及び「こしいぶき」を中心とする品種構成で、近年「コシヒカリ」が減少傾向にある。 また、県では新品種「新之助」（晩生種）の作付拡大を推奨している。	○ 高品質・良食味米生産推進のため、以下の指導が行われている。 ・ 作業時期の分散のための適期移植 ・ 栽植密度の適正化 ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 適正な穂肥、水管理
富山	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっているものの、近年高温登熟でも品質が安定している「てんたかく」及び「てんこもり」及び「富富富」が増加傾向にある。	○ 土壌診断に基づく土づくり ○ 高温登熟を回避するため、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植の実施、栽植密度の適正化 ・ 適期・適切な中干しの徹底 ・ 肥料の適期・適量施肥
石川	○ 「コシヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質・良食味生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正穂数の確保 ・ 肥料の適期・適量施肥 ・ 適期収穫
福井	○ 「コシヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成であるが、近年「コシヒカリ」が減少傾向、「あきさかり」が増加傾向にある。 なお、新品種である「いちほまれ」も増加傾向にある。	○ 土づくりと適切な水管理の徹底 ○ 高温登熟回避による品質向上を図るため、適期移植等の指導が行われている。
山梨	○ 「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年「あさひの夢」が減少傾向、「ヒノヒカリ」が増加傾向にある。	○ 高温による品質低下防止のため、以下の指導が行われている。 ・ 適期は種、適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 適期収穫
長野	○ 「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。 県のオリジナル品種として、「風さやか」の導入を推進している。	○ 食味向上に向けた適量施肥 ○ 高温登熟障害（胴割米、白未熟粒）防止のための適切な水管理、適期収穫等 ○ 低コスト稲作推進のため、疎植栽培等の指導
岐阜	○ 「ハツシモ」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 温暖化傾向に対応するため以下の指導が行われている。 ・ 疎植栽培の普及 ・ 緩効性肥料の導入 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期収穫
静岡	○ 「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向にある。 ※「あいちのかおりSBL」（中生種）は縞葉枯病抵抗性品種である。	○ 売れる米づくり及びコスト削減のため、以下の指導が行われている。 ・ 健苗育成 ・ 穂肥の適期適量施肥 ・ 適期防除 ・ 適期刈取り
愛知	○ 「あいちのかおりSBL」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向けて、施肥改善と基本技術の励行 ○ 過剰な生育を抑制するため、適正な栽植密度の確保等

平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
三重	○ 「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 白未熟粒対策のため、品種に応じた適期・適量施肥等の指導が行われている。
滋賀	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「日本晴」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」及び「キヌヒカリ」が減少傾向となっている。 高温登熟性に優れた「みずかがみ」を増加する計画である。	○ 良質米生産に向け、土づくりを基本にして、 ・ 初期の過繁茂抑制、もみ数過多の抑制 ・ 登熟期の高温回避 ・ 登熟期の栄養確保を重点 生育の各段階における栽培技術の見直し、品質の高位安定化を図っている。
京都	○ 「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 緩効性肥料の施用 ・ 適期移植、疎植
大阪	○ 「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品種別、地域別に適期移植、水管理の適正化、合理的施肥、適期収穫等の指導が行われている。
兵庫	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」、「キヌヒカリ」及び「山田錦」を中心とする品種構成である。「きぬむすめ」の作付推進を図っている。	○ 良質米生産に向け、品種別に以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適期・適量施肥
奈良	○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上といもち病回避のため、減肥栽培の指導が行われている。
和歌山	○ 「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」、及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。なお、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適量施肥
鳥取	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 土づくりの徹底 ・ 適期移植 ・ 施肥の改善 ・ 適正な水管理 ・ 適期の病虫害防除等
島根	○ 「コシヒカリ」及び「きぬむすめ」を中心とする品種構成であるが、近年、「コシヒカリ」が減少傾向、「つや姫」が増加傾向にある。	○ 良質・良食味米の安定生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 健苗の育成 ・ 地域別・品種別適期移植 ・ 適正な肥培管理

平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
岡山	○ 「アケボノ」、「ヒノヒカリ」、「あきたこまち」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。	○ 育苗作業の省力化のため疎植栽培や直播栽培の普及 ○ 生育状況に応じた施肥管理 ○ 高温下での登熟回避のための適期移植 ○ 地域や品種に適合した肥料選定等の指導が行われている。
広島	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」及び「あきさかり」を中心とする品種構成である。近年、「ヒノヒカリ」、「あきろまん」が減少傾向、「恋の予感」及び「あきさかり」が増加傾向にある。	○ 肥培管理、水管理等基本管理技術の高位平準化により外観品質向上を目指している。 ○ 需要動向を踏まえた売れる米作りに対応し、実需者ニーズに対応する品種の作付けによる産地の育成を図っている。 ○ 省力、低コストの観点から集落法人等を中心に疎植栽培がほぼ定着。
山口	○ 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年「きぬむすめ」が増加傾向にある。	○ 品種特性に応じた栽植密度の確保 ○ 中干し等水管理の徹底 ○ 気象条件にあった施肥管理等の指導が行われている。
徳島	○ 「コシヒカリ」、「あきさかり」及び「キヌヒカリ」を中心とする品種構成であり、「キヌヒカリ」から耐暑性に優れた「あきさかり」への作付転換を図る予定である。	○ 早期・普通期とも疎植栽培の推進 ○ 食味の向上や倒伏による品質低下防止のため、適期・適量施肥等の指導が行われている。
香川	○ 「コシヒカリ」、「ヒノヒカリ」及び「おいでまい」を中心とする品種構成となっているが、近年「ヒノヒカリ」が減少傾向、「おいでまい」が増加傾向となっている。	○ 良質米生産に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な水管理 ・ 適期移植、株間の広角化 ・ 適量施肥 ・ 適期の病虫害防除等
愛媛	○ 「ヒノヒカリ」、「コシヒカリ」、「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適期移植 ・ 適正な水管理 ・ 生育後半まで肥効を維持させる
高知	○ 早期栽培では「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年高温登熟性に優れた「よさ恋美人」が増加傾向にある。 また、普通栽培では「にこまる」が増加傾向にある。	○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。 ・ 適正な肥培管理 ・ 適期防除 ・ 水管理の徹底 ・ 高温対策として収穫前の水管理の徹底（早期栽培）、 高温障害対策として、適期移植（移植時期を遅らせる）（普通期栽培）

平成31年産水稻の10 a 当たり平年収量に係る生産事情（都道府県別）

	生産事情	
	品種構成等	栽培技術指導方針
福岡	<p>○ 「ヒノヒカリ」、「夢つくし」及び「元気つくし」を中心とする品種構成であるが、「ヒノヒカリ」が減少傾向、「夢つくし」、「元気つくし」が増加傾向となっている。</p> <p>なお、県では今後、新品種「実りつくし」の拡大を推奨している。</p>	<p>○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適期移植</li> <li>・ 中干し・間断灌水・落水時期の適正化</li> <li>・ 土壌診断・施肥基準に基づく適正な施肥</li> </ul>
佐賀	<p>○ 「夢しずく」、「さがびより」、「ヒノヒカリ」及び「ヒヨクモチ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>	<p>○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品種特性に応じた移植時期の徹底</li> <li>・ 生育ステージに応じた施肥管理、水管理</li> </ul>
長崎	<p>○ 「ヒノヒカリ」、「にこまる」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p> <p>なお、県は「なつほのか」を奨励品種としており、増加傾向にある。</p>	<p>○ 品質に加え、食味に重点をおいた栽培指導（適正な肥培管理等）</p>
熊本	<p>○ 「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>	<p>○ 品質向上に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高温時期の登熟障害回避のための適期移植（遅植栽培）の推進</li> <li>・ 水管理・追肥等の改善</li> <li>・ 土壌改良資材の投入</li> </ul>
大分	<p>○ 「ヒノヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>	<p>○ 品質向上に向けた移植時期の適正化</p>
宮崎	<p>○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p> <p>「み系358」への作付誘導が進められている。</p>	<p>○ 移植時期の後進化</p> <p>○ 土壌診断に基づく適正施肥等の指導が行われている。</p>
鹿児島	<p>○ 「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p> <p>「イクヒカリ」及び「あきほなみ」への作付誘導が進められている。</p>	<p>○ 良品質米の生産に向け、以下の指導が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適正な栽植密度の確保、適期移植</li> <li>・ 適正な施肥、水管理</li> </ul>
沖縄	<p>○ 「ひとめぼれ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。</p>	<p>○ 肥培管理・防除等の指導</p>